

三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル	採択コース
三重県のユーンデ村化計画！	Aコース

学生情報	
氏名	佐藤みを
所属学部・研究科	生物資源学部
学年(出発時)	3年

渡航先情報	
渡航先	ドイツ
渡航先滞在期間	2024年2月29日 ～ 2024年3月15日
訪問先機関等	フライブルク大学, ユーンデ村, ヴォーバン地区
訪問先機関での身分	—

渡航概要と内容
概要 環境先進国といわれるドイツに赴き, そこで行われている大学の研究活動, 人々の暮らし, バイオマスエネルギーで生産したエネルギーで電力を賄う村(以下: ユーンデ村), 移動手段として車の使用を規制した地区(以下: ヴォーバン地区)の視察を行った. 内容 大学の研究活動: 環境都市として知られるフライブルク大学の教授のもとに伺った. 彼女はモンゴル出身の教授で森林生態学について研究している. ドイツでの研究活動と, 活動内容, 経歴について様々なことを伺った. 人々の暮らし: ホテルとは別に, ホームステイを行うことで現地の人々の暮らしにより密着し, 環境問題への意識を考える機会とした. ユーンデ村: 村に訪れ, 住民の方々にインタビューとバイオマス施設の見学を行った. ヴォーバン地区: 現地に訪れ, 地区の中で行われている環境対策を視察した. その他: 環境歴史博物館に訪れ, 地球の歴史・環境問題への意識と我々人類が果たす責任を再確認した.

渡航により達成できたこと
上記(渡航概要と内容)で述べた内容を達成できたことに加えて, 海外独特の文化や現地の人との触れ合いを通して, コミュニケーション能力が身につくことができ, 海外の友達を作ることができた. 交流ができることで「外国」という認識が「彼らがいる国」に変わり, 彼らがいる国すなわち世界の情勢について考えることが自然にできるようになったと考える. 日本で生活していく上で私たちは, 「マジョリティー」の一部だが, 海外で生活することはその地域での「マイノリティー」になることを意味すると思う. マイノリティーとして生活することで, 色々な人に助けをもらい, 失敗もして, 自分で考えて生きる力を身に付けることができ, 今回の学生海外チャレンジではまさにそれを達成できた. また, 母国について俯瞰的に見ることができ日本の新たな一面や世界の中の日本を感じることができた.

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

ドイツが「環境先進国」と言われている所以はどこにあるのか？現地に行き、生活してみること初めてわかる。国民の環境意識、生活習慣についてその理由が少し理解できた。例えば、ドイツでは公共交通機関が日本並みかそれ以上に発達していると思った。まだまだ車社会な面もあるが、私が今回車を1度も利用せずにドイツ国内をまわることができたのも公共交通機関が発達していたおかげである。また、どのスーパーマーケットでも、Bio製品やビーガン製品いわゆる環境に配慮した製法をとった商品への選択肢が豊富だった。日本でビーガンというと、意識高い系というイメージが未だにあるが、その価格帯、選択肢の少なさを考慮するとそれは仕方のないことだろう。環境に配慮した商品が生活に溶け込んでいて、安価に購入することができるという点は日本も見習って欲しいと思った。ユーンデ村については、私が聞いていた話と村の現状には異なる点が多々あったが、それについても実際にその村を訪れないと分からなかった現実的な問題の存在を知ることができた。

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

今回の学生海外チャレンジで、かねてより訪れたかったドイツを訪れたことで自分の中の環境意識が高まったと同時に、海外を舞台に仕事をしたいという思いがより一層強まった。環境問題への意識に関しては、日本人全員の意識を私一人の手でどうこう変えようとするのは、現実的ではない話だが、自分の周りにいる友達、家族、先輩、後輩、バイト先のメンバーなど身近にいる人々に自分が行動することで少なからず影響を与えることはできるのではないかと考えるようになった。考えられる手段としては、自身の持ち物・食べ物の選択、InstagramやFacebookでの発信だ。今回のドイツでの体験を共有することも大変有意義であると思う。また、海外への進学就職については、まず大学院でドイツの大学院に学期留学を考えている。日本の大学で学んだ知識を持ち、日本の大学院に所属しながら、ドイツの大学院で学ぶということは今よりも専門的な知識を要するし、語学的にもさらにレベルアップが必要だが、自分にとって有意義な学生生活になると考える。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

自分にできるかな？海外初めてだけど大丈夫かな？といった不安もあるし、選考に選ばれる不安もあるかと思います。学生海外チャレンジは、自分で自由に計画を立てられるというメリットがある反面、それは全部自分で計画しなくてはならず、その責任も自分で持つという意味でもあります。色々考えれば不安は尽きないと思いますが、まずは行動してみてください。申請書とにらめっこして自分の将来、やりたいことと向かい合ってください。そして、できるだけ早めに計画を立ててください。国際交流センターの皆さんはとても親身になって話を聞いてくれますし、英語の先生・仲の良い先生でもかまわないので誰かに相談してみてください。それをやり遂げたただけでも、十分留学への第一歩を踏み出していますし、留学が終わった後にはあなたの人生にとってかけがえのない経験になっているはずです。

計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	116,410円
海外旅行保険	13,090円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	0円
宿泊費	91,267円
光熱費	0円
食費	49,000円
その他	70,588円
合計	340,355円